

気候変動について取材してわかったこと、感じたこと。

三宅 阜晴（みやけ こはる）

今回私は、地球温暖化について学びました。

地球温暖化になる原因やえいきょう、2100年までに地球の温度が何度あがるかなどを鹿児島大学の志水教授に教えてもらいました。

特におどろいたのは、2100年までに地球の温度は5度以上あがり、海面は1m以上あがるということです。最初はピンとこなかったのですが、これから77年後の未来のことで私が88歳のころの話だと考えると私がおばあちゃんになったとき毎日の気温が5度、夏だと毎日42度以上の日がつづくと思ったらぞっとしました。

また、紅葉が見られなくなる話をきいて、秋がなくなるのかな？日本の四季はどうなるのだろうと疑問にも思いました。私は、涼しくて過ごしやすい秋が好きですが、それもなくなってしまうのでしょうか？不安です。

地球温暖化の一番の原因は、CO₂（二酸化炭素）だということも教えてもらいました。家庭でCO₂を出す原因は、1位電気2位ガソリン3位都市ガスとのことでした。

電気は火力発電のためCO₂をたくさん出しているということでした。ものを燃やすときにCO₂を出すことも知りました。

私はインタビューのとき、地球温暖化のためにしていることはないか？と質問されたとき、思いつかず「ない」と答えてしまいましたが、ごみの分別や物のリサイクルは地球温暖化のためになっているのだということに気づきました。他にも、節電をしたりするのもそうだと思います。

志水教授は、地球温暖化を止めることより回復させることが大事だという話もしてくれました。そして、地球温暖化の回復につながる植物『ケナフ』のことを教えてくれました。ケナフは、地球温暖化になる原因の1つ、CO₂を吸ってくれるそうです。

鹿児島大学では、『ケナフ』栽培していて実際に見ることができました。また、ケナフの仲間のローゼルやケナフの葉を食べることができました。ケナフの葉は、すこしすっぱくてしょっぱい物もありました。そして、ケナフの葉は、丸いハートのような葉と紅葉のような先祖返りした葉の2種類がありました。

ケナフは水にも強いので船のロープなどに使う材料になり、昔は皮をはいで紙をつくる原料になったと教えてもらい実際に皮をはいで紙をつくる工程も教えていただきました。

CO₂（二酸化炭素）をたくさん吸った後のケナフの茎は、直径2センチほどでとても太く、皮をそう簡単にはがせそうにないと思いました。でも1週間ほど水につけていたケナフの茎は簡単にはがすことができました。サトウキビのようだなとも思いました。

わたしは、初めてケナフという植物を知りました。食べることができるし紙になることもできて栽培もしやすい植物だとわかりました。

栽培しやすいのであれば、学校や家庭で育てたら地球温暖化の役に立つとも思いました。けれど、ケナフを最後に燃やすとまたCO₂（二酸化炭素）をだしてしまうので燃やさずに海に埋めることに問題がないことが早く証明されたらよいなと思いました。

今回わたしは、地球温暖化の原因であるCO₂を少しでも減らしていくために節電などを徹底することやゴミの分別などもしっかり行っていきたいと思いました。また、物を大事にすることもCO₂を少なくすることにつながると思いました。今回、鹿児島大学で学んだことによって地球温暖化のことを身近に感じるできるようになりました。